

## 一層の関係強化に向け初会合 ～ 国立高等専門学校(商船学科)5校と内航船社の 情報交換会を開催～



情報交換会の模様

日本船主協会は、2008年7月に「人材確保タスクフォース(TF)」を設置し、優秀な日本人船員(海技者)確保のための広報活動を行っているが、内航関係については同TFの中に「内航ワーキンググループ(WG)」を置いて対応を進めている。

この度、内航WGが中心となって、商船学科を有する国立高等専門学校5校(商船系5高専)と、当協会会員の内航船社がお互いの状況等について率直に意見交換する「情報交換会」を東京で開催した。

2010年以降、日本船主協会は、海技教育機構傘下の各校と当協会内航船社の情報交換会を例年開催してきたが、昨年12月に高専側から「内航船員を志向する学生も増えているため、内航各社との一層の関係強化を図るべく、機構同様に情報交換の場を設定願いたい」との要請があったため、今回初めて商船系5高専との会合を開催する運びとなった。

2月15日に当協会会議室で開催した情報交換会には、富山高専(商船学科)、鳥羽・広島・大島・弓削各商船高専の教員計10名と、当協会会員内航船社17社から25名が参加。会合では、まず、高専各校から学生の在籍状況、進路志望傾向と実際の進路状況等の説明があり、続いて内航船社から各社の事業概要や船員規模が



人材確保TFを代表して挨拶する  
五十嵐 日本船主協会副会長



5高専を代表して挨拶する  
弓削商船高専 多田教授

その後、高専側から予め寄せられた、「内航船社における5高専卒業者のキャリアパス」や、「新人船員採用にあたって重視する資質」、「若手船員の主な離職理由及びその防止策」等の質問について各社から情報や考えが示され、「新人船員採用にあたって重視する資質」に関しては、協調性・積極性・コミュニケーション能力・柔軟性等、人間性を重視するとの意見が大勢を占めた。

最後に双方の説明を踏まえた質疑応答等が行われ、将来の内航海運業界を支える優秀な新人船員の養成に向け、引き続き連携強化に取り組む必要性を確認して終了した。

日本船主協会では、来年度以降もこの情報交換会を継続して開催していく。